

資料 6

平成 30 年 6 月 20 日

第 141 回火山噴火予知連絡会  
霧島山の火山活動に関する検討結果

新燃岳では、今後も噴火を繰り返す可能性があります。  
えびの高原（硫黄山）周辺では、4月の噴火以降、観測データに火山活動の低下傾向がみられています。  
霧島山の火山活動の長期化や活動のさらなる活発化も視野に入れて、引き続き慎重に火山活動の変化を監視する必要があります。

活動の状況

新燃岳では3月1日から噴火が始まり、3月6日から9日にかけて溶岩が火口内に噴出し、一部は北西側火口縁を越えて外側斜面に流出しました。広域のGNSS連続観測では、2017年7月頃から膨張が続いていた地盤が、溶岩の噴出時期に収縮したことが観測されました。3月9日からは爆発的噴火が活発になり、3月中旬以降は噴火の間隔は次第に長くなりました。5月14日を最後に噴火は発生していません。

えびの高原（硫黄山）周辺では、4月19日に硫黄山でごく小規模な噴火が発生し、噴火地点の周辺100m程度まで大きな噴石が飛散しました。地殻変動観測では、3月頃から観測されていた硫黄山付近の地盤の膨張は、4月19日の噴火以降、収縮に転じたことが観測されました。また、4月26日には硫黄山の西側500m付近で火山灰が混じる高さ200m余の噴煙が約10分間上がりました。

活動の評価

新燃岳では、噴火活動は3月の溶岩噴出時期に比べて次第に低下してきていますが、地震活動は3月の噴火以前より高い状態を保っていますので、噴火を繰り返す可能性があります。

えびの高原（硫黄山）周辺では、4月の噴火後は地震活動、地殻変動及び噴気活動などの観測データに火山活動の低下傾向がみられていますが、再び活発化を示す変化が認められた場合には、噴火が発生する可能性があります。

また、広域のGNSS連続観測では、3月の新燃岳の溶岩噴出時期の収縮後、再び膨張傾向を示す変化がみられており、深部のマグマの蓄積を反映していると推定されます。霧島山の火山活動の長期化や活動のさらなる活発化も視野に入れて、引き続き慎重に火山活動の変化を監視する必要があります。